

九月二日 ◆ 午後七時開演

「にぎりえ」

九月三日 ◆ 午後三時開演

「二葉の母そして十三夜」

九月四日 ◆ 午後三時開演

「二葉日記そして大つごもり」



《樋口一葉没後120年記念》

# 奥山真佐子ひとり芝居

2016年9月2日[金]、3日[土]、4日[日] 三越劇場 (日本橋三越本店本館6階)

【料金(全席指定・税込)】1作品 6,000円(22歳以下 3,500円) / 3作品通し券 15,000円(22歳以下 9,000円)

【ご予約・お問い合わせ】《三越劇場》電話 0120-03-9354(10:30~18:30)、インターネットご予約 <http://mitsukoshi.mistore.jp/bunka/theater/>

《河佐井プロモーション》電話 03-6454-1955(平日 11:00~19:00)《奥山真佐子ホームページ》<http://www.okuyama104.com/>

《カンフェティ》電話 0120-24-540(平日 10:00~18:00) <http://www.confetti-web.com>

【前売開始日】2016年7月1日(金) 午前10:30 ~

(三越劇場の前売開始日はお電話・インターネットご予約のみ)



MITSUKOSHI  
三越劇場  
〒100-0001 東京都中央区日本橋室町1-4-1  
日本橋三越本店本館6階

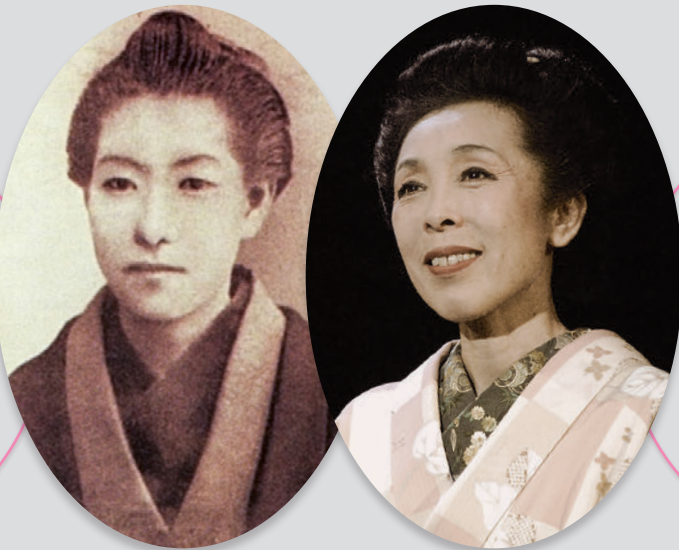
# 樋口一葉の世界 2016 奥山眞佐子ひとり芝居

一葉さんが亡くなって120年、明治時代の美しい日本語で描かれた女性たちの生き様。

## 樋口 一葉

(明治5年～明治29年)

日本初の女性職業作家。両親は山梨県塩山出身。19歳で小説家を志し、東京朝日新聞の記者・半井桃水に師事。22歳の時に「大つごもり」で文壇に登場し、その後わずか2年足らずで多くの作品を発表し、24歳で死去。没後120年経った今も、それらの作品は輝き続け人々に愛されている。



## 奥山 眞佐子

平成9年より樋口一葉作品のひとり芝居に取り組み、今年で19年になる。山梨県甲府市出身。文教大学文芸科卒。24歳で舞台俳優を志し、マキノ雅弘・山田五十鈴・金子信雄・丹阿弥谷津子に師事。NHK朝の連続ドラマ「花子とアンの」山梨ことば指導を担当する。

九月二日「金」午後七時開演

## 「にぎりえ」

「お力」は、銘酒や「菊の井」の売れっ子酌婦。華やかな裏側に深く暗い闇を抱えている。「お初」は、お力に心奪われ全財産を失った「源七」の女房。貧乏暮らしになって、息子と家族三人の幸せな生活を取り戻そうと内職に精を出す……。

尺八 ◆ 本間 豊堂



琴古流古典尺八を加藤秀和、横山勝也に師事。竹心会所属。和楽器のオーケストラ「むつ」のメンバー。邦楽創造集団「オーラ」、箏・長唄三味線「尺八」小原座、尺八&「ANZIB」アノトリオ「平成ロマンキャンメン」メンバー。

九月三日「土」午後三時開演

## 「二葉の母そして十三夜」

一場：山梨ことばで母親が語る一葉の生い立ち。  
二場：「十三夜」：「お関」は十七歳の正月、高級官僚に見初められ、望まれて結婚した。しかし、長男誕生後、夫は鬼と化してしまふ。その仕打ちに耐え兼ねたお関は両親に救いを求めたが、父親に諭されて、泣く泣く嫁ぎ先に戻る。  
その帰り道に乗った人力車の車夫が初恋の人と知って……。

浄瑠璃 ◆ 常磐津 和英太夫



幼少より五代目常磐津和佐太夫に師事。平成二年より歌舞伎公演の演奏にも携わる。現在早稲田大学演劇博物館招聘研究員、聖学院大学および宇都宮大学講師。

三味線 ◆ 常磐津 菊与志郎



常磐津菊与志郎に師事。二〇一三年度財団法人清栄会奨励賞受賞。歌舞伎公演・日本舞踊公演等に出演の他、パントマイムや舞踏、京劇、現代演劇との共演多数。

九月四日「日」午後三時開演

## 「二葉日記そして大つごもり」

一場：小説の師・半井桃水を記述した日記より  
二場：「大つごもり」：「お峰」は、伯父のために奉公先からお金を借りる約束をしていたが、御新造は覚えがないと知らぬふり。お金を受け取りに来た伯父の息子の笑顔を見たお峰は……。

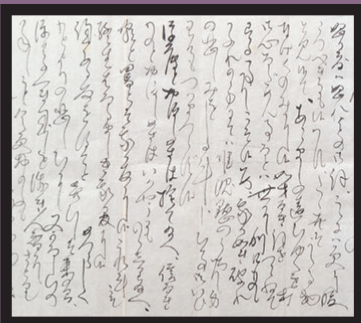
お囃子 ◆ 高橋 香衣



第一回「世田谷区芸術アワード」『飛翔』音楽部門受賞。二〇〇四年NHK邦楽技能者育成会五十期に入会。歌舞伎囃子を堅田喜三久師（入間国定）、堅田新十郎師、堅田喜久祐師、長唄三味線を柁屋五三吉師、柁屋五吉郎師に指導を受ける。

## 構成・演出 ◆ 鈴木 龍男

- 所作指導 ◆ 花柳 奈千穂
- 美術 ◆ 高田 潔
- 照明 ◆ 須藤 実
- 衣裳 ◆ 金子 龍子
- 床山 ◆ 武川 卓男
- 美粧 ◆ 佳山 みな
- 撮影 ◆ 椎林 隆夫
- 舞台監督 ◆ TAKE4



樋口一葉が小原興三郎氏へ宛てた手紙(一部)

【特別展示・樋口一葉直筆書簡】  
一葉さんの直筆書簡との出会い  
それは、驚きの出会いでした。桜木町の天ぷら屋さんご夫妻のお誘いで、ミッキー吉野さん(ゴダイゴ)のライブに伺った時のことです。ミッキーさんが、ご紹介してくださいだったので小原貴晴さんご挨拶がすむと、小原さんは「樋口一葉の手紙が家にあるんです」とおっしゃいました。それは「みづの上日記」に記載のある一葉さんが送った怒りの手紙でした。この時の驚き、喜び、胸の鼓動は言葉に尽くせません。  
今回、このお手紙をお借りして三越劇場のロビーに展示し、皆様にご覧いただける運びとなりました。感謝と喜びでいっぱいです。  
奥山眞佐子